

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立小倉高等学校

自己評価					学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針		「倉高 ONLY ONE 計画」の円滑な遂行 絶えず自分の未来を模索し、自己実現に努め、将来を切り開く気概と他者への思いやりの心を持つ生徒を育成するための教育活動を展開する。より良い未来を創るため、生涯学び続け、社会や他者へ貢献できる人材を育成する学校を目指す。			A	A	A : 適切である
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標				
昨年度は、「倉高 ONLY ONE 計画」を学校経営方針の中心に掲げ、「新学習指導要領への対応」、「一人一台端末の活用」、「成年年齢の引き下げへの対応」、「働き方改革の促進」を重点目標に教育活動の充実を図った。この目標達成のために必要な教師個々の資質・能力「教師力」及び学校としての組織的指導力「学校力」の更なる向上を図り、教育活動の充実と努め、一定の成果を上げたと考えられる。 今年度は「自己実現から未来の創造者へ」のローガンの下、生徒が自分でやりたいことを自分で見つけ、やるべきことを考え、実際に行動する力や、自らが考え、主体的に行動して、責任を持って未来を創造していこうとする力を育むため、生徒の「伴走者」として学習支援を更に充実させるとともに失敗を恐れず積極果敢に挑戦する生徒の育成に邁進する。		不断の授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを追求する質の高い授業の推進 観点別学習状況の評価の更なる充実 				
		探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の充実と取組の継続 教科の授業における探究活動の充実と総合的な探究の時間との連携 				
		心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に判断し、活動できる生徒の育成 自信と誇りを持ち充実感のある学校生活を送る生徒の育成 				
		学びあい支えあう教員集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 常に学び、学び合う教員集団の創造 厳しくも温かい教員集団の創造 				
		カリキュラムマネジメントの実践	<ul style="list-style-type: none"> 理解と納得につながる教育課程の検証・評価と見直し しなやかな発想の転換ができる教員集団の創造 				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学習指導(勉学)	観点別評価に基づく授業改善と教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科内で観点別評価の在り方を検討し、新課程に即した教科指導や評価の方法を確立する。 学力向上に向けたさらなる効果的なICTの活用を行う。 講習や提出課題の在り方について改善を行う。 変更が著しい大学入試の分析や進学テストの問題検討会を通して作問力の向上を図る。 	B A A A	今年度は様々な教育活動でICT機器が活用され、生徒のタブレット端末の使用頻度も高まった。今後はさらに個に応じた指導に繋がるよう、各教科がその特性に応じて活用方法を研究し、発展させていく。 生徒が個別最適な学びを展開するための一人ひとりに対するきめ細やかな指導の在り方の確立させる。特に、限られた時間の中で、自己に必要な学習を計画し、実施できるように支援を行う。	A	ICTの利活用については、スタディサプリ等のアプリケーションの導入も検討して欲しい。 生徒自身がPDCAサイクルを適切に実行できるよう、教師が詳細な分析を行い適切な指導を行っていく必要がある。 また、一斉課題は生徒に劣等感を抱かせる可能性もある。生徒が主体的に学べるような工夫をすべきである。	
	生徒が主体的な学びを实践する姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自身の学びを振り返る機会を設け、課題発見や学習改善、発展的内容への取組という一連のPDCAサイクルを確立させる。 主体的・対話的で深い学びの実現を具体的な手法で回り、「見方・考え方」を働かせることができる生徒を育成する。 生徒の学習状況を的確に捉え、個別最適化された指導を行うことで教員の指導力向上を図る。 学習評価の在り方や方針を生徒や保護者と共有することで共通理解を図る。 	B A A A				
進路指導(創造)	探究活動を活用した進路学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動により生徒の進路に関する知識と意欲を高め、キャリア教育の充実を図る。 進路講演会などによって、生徒に良い刺激を与え高い志を抱かせる。 大学や地域、他校と連携した取組をさらに推進し、指導方法や評価方法について研究を進める。 オンラインを活用した進路研究の在り方について指導法を深める。 	A A B B	高大接続や職業体験など、体験的な学習活動の機会を設けることで、学習意欲を喚起するキャリア教育の充実を図る。また、探究活動で得た知識を活用する力や課題発見・解決能力を身に付けさせる。 生徒が第一志望校を安易に変更せず最後まで取り組むようにする進路指導体制を確立する。また、新課程入試に向けた講習や校外模試の望ましい在り方について検討を続ける。	A	インドとのオンライン教育交流を含め、探究活動を更に推進して欲しい。 伝統校であるが故に教育活動を大きく変えることには困難が伴うことは理解できる。しかし、コロナ禍を経て従来の教育活動を改めて見直す必要がある今こそ、時代のニーズに一層応えられる学校へと改革する好機である。	
	進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進路情報を提供し、個人面談や明瞭講習、個別指導を充実させることで、生徒一人一人の自主的な学習活動を促す。 新大学入試制度や新学習指導要領に関する情報を常に把握しながら、将来の進路指導に向けた具体的方策を協議する。 各期の東大10名、京大10名、九大80名、医学部医学科20名合格という目標の達成に向けて支援する。 進学テストの作問やICT教材の活用を通して、教科内で難関大学・学部の入試問題研究を行うとともに教科指導力の向上を図る。 	A B A A				
生徒指導(規律・勤労・敬愛)	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立し、出席率99%、出席皆勤者50%以上を目指す。 校内外におけるマナーの向上を指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させる。 自身と他者を価値ある存在として尊重し、人を思いやる心豊かな生徒を育成する。 校内だけでなく、校外でも、常に周囲を気遣い、主体的に判断し良心的な行動ができるよう指導する。 	B A A A	時代に適応した校則等の見直しを段階的に進めていき、生徒の校外での身だしなみ、着こなしに対する規範意識を育成する。また、生徒の多様な価値観を十分に把握し、一人一人を尊重した指導を行う。 感染症対策を継続しつつ、従来の規模で学校行事を実施した。生徒の主体的な取組を充実する観点から、生徒会活動や部活動の指導の充実を図る。 生徒に人権感覚と共生感覚を身に付けさせる工夫を全職員が一体となり進めていく必要がある。学校、家庭、専門機関が連携しながら生徒一人一人を大切に育成し、生徒の自尊感情を高める指導を行う。	A	部活動活性化の一環として、雑誌の記事等を利用して部員同士で感想や意見を述べ合うミーティングの導入を検討してはどうか。月に一回でも良い。これにより部員間のコミュニケーションも図ることができ、精神的な強さを育成する効果もあると思われる。慶応高校野球部や飯塚高校サッカー部等でも同様のミーティングを実施し、効果を上げていくと聞いている。生徒にはチームの団結力を高め、窮地に陥った時に柔軟に対応できる力を身に付けて欲しい。 また、本校の伝統行事である応援練習はぜひ継続していただきたい。	
	部活動・生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 勉学と部活動、生徒会活動との両立を目指すため、最後まで諦めない挑戦する態度を育成する。 部活動の一層の活性化に努め、文化部・体育部合わせて全国大会5部の出場を目標とする。 文化祭・体育大会・学校開放説明会等の学校行事を通して、倉高生としての帰属意識と達成感を持たせる。 部活動・生徒会活動等を通じて、主体的に考え、組織的に取り組む態度を養い、リーダーシップを育成する。 生徒の状況を的確に把握し、必要に応じて迅速に家庭や関係機関と連携して支援や指導を行う。 	A B A A				
	生徒の状況に即した指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ防止基本方針に基づく5項目の取組を実施し、いじめ防止対策委員会が評価及び今後の課題の検討をする。 生徒の様々な情報を全職員で共有し、家庭と連携した教育的支援を実践する。 全教育活動を通して、人権感覚と共生感覚を身につけさせ、人間力の向上を目指す。 	A A A				
組織体制	お互いに支えあい、協働する心温かい教員集団の創造	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般について、教員間の協働を推進することで、チーム小倉として組織力の向上を図る。 生徒情報の共有を密にすることで、個々の生徒に応じた組織的で適切な指導を行う。 教師が生徒の主体的な学びを支援する「伴走者」としての役割を認識し、学習支援に取り組む。 教員の意識改革や業務改善等により働き方改革を推進し、超過勤務縮減を図る。 	B A B A	次年度は、組織力向上のため、ミドルリーダーや若手教員に対するサポートの充実を図る。また、校内研修を充実させ、生徒の学力向上や教員の働き方改革を一層推進する。	A	超過勤務時間の縮減をはじめ、先生方の勤務環境の更なる改善を図って欲しい。それが先生方の余裕を生み、生徒の学力向上につながっていくと考える。	
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策						評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒への一斉課題の在り方を検証・改善し、個別最適な学びを实践できる教育環境を構築するとともに、生徒の主体的な学びを一層推進していく。 生徒の第一希望進路の実現を進路指導の根幹に据えながら、適切な学習環境の整備に努める。 予測困難で変化の激しい時代を逞しく生きる生徒を育成するため、探究活動を通じて、社会の変化に対応する柔軟な発想や、粘り強く取り組む態度を育成する。 不易と流行を的確に見極め、「令和の時代の小倉高校」の創造に向けて取り組む。 業務の見直しやICTの利活用を一層推進していくことにより教職員の超過勤務時間の縮減を図り、生徒の指導に全力で取り組める職場環境づくりに努める。 						特になし	